

# 1 学年通信 **むらさき集う** 平成 25 年 1 2 月 1 3 日 発行

発行責任者：結城克明

## お礼

先日の授業参観、教育講演会、そして学年懇談会と大変な長丁場でありましたが多数のご参加をいただきありがとうございます。中学生として、お子さんの成長とともに、学級の集団としての成長も感じ取っていただけたのではないのでしょうか。入学時から現在まで、行事を中心に学年で撮り貯めた写真をスライドでお見せしましたが、たった半年で体格から表情に至るまで本当に中学生らしくなったなど改めて感じ入った次第です。

あと 1 週間で 2 学期が終了します。小学校にたとえると残り 3 ヶ月で 2 年生が終了します。本当に中学校生活は短い。今年 1 年をしっかりと振り返り、来年、そして 3 学期に生かして欲しいと思います。

## まとめ

本日の 6 校時目に学年集会を行いました。はじめに各クラスの代表から 2 学期の反省を述べてもらいました。今回は予め書いた原稿を読むのではなく「ノー原稿」で行いました。パブリックスピーチには慣れていないはずですが、各クラスの代表は大きな声で堂々と反省を述べることができました。次回 2 学期最終号でいくつか紹介したいと思います。

学年の生活と学習の係の担当からは冬休みの過ごし方や事故防止について、冬休みの課題や次回のテストなどについて具体的に説明しました。

クリスマスや正月など、世の中全体が浮かれ気味になりますが、生徒達にはしっかりとした生活を送って欲しいと思います。

## 交通事故・不審者事故防止

「年末・年始交通事故防止県民総ぐるみ運動」がはじまります。通学時は余裕を持って、下校時は暗がり気をつけて交通事故防止に努めさせて欲しいと思います。特に自転車による事故が多発しています。交通ルールについては上述の学年集会や昼の放送で周知徹底しているところです。

また、日没が早く完全下校時間にはすっかり暗くなります。今月に入り、新聞やテレビなどの報道によれば不審者による声かけや事故も増加しているようです。不審者による事故に遭わないためにも、集団で帰る、できるだけ明るい道を選んで帰る、防犯ブザーを携帯し常に動作できるようにしておくなどの備えをしてほしいと思います。

## 来週の予定

12 / 16 (月)	1-1 が「 <b>あいさつ運動</b> 」を <b>7 : 35</b> から校門で行います 部休日です
17 (火)	B案 授業変更があります。6校時：月曜日の5校時の授業です。
18 (水)	B案 6校時
19 (木)	6校時普通授業
20 (金)	<b>第2学期終業式</b> 授業変更があります。 水2・金4・金5・終業式・給食・清掃・学級活動 部休日です

## 生活アンケートから



2週間前の本欄で「早寝・早起き・朝ご飯」のタイトルで朝食摂取率の結果をお伝えしました。90%のお子さんが朝食をとり登校していますが、郡山市内の平均と比べるとやや悪い結果になったことはすでにお知らせしたとおりです。

「早寝 早起き」の項目については先日行いました「生活アンケート」をもとに述べたいと思います。

あるクラスの結果です。

最も睡眠時間の多い生徒 → **9時間30分**

最も睡眠時間の少ない生徒 → **2時間!!**

※就寝時刻と勘違いしたのではないかと思いますが・・・

上記の生徒はどちらも毎朝食事をとって登校しています。実はこのクラスは朝食摂取率100%のクラスです。睡眠時間は平均すると**7時間30分**ぐらいになります。

この数字が多いのか少ないのかということになりますが、5年ごとに総務省統計局から「社会生活基本調査」というものが公表されています。平成23年のものが最新のデータになりますが、それを紹介します。

日本人の平均睡眠時間（週平均）	→ <b>7時間42分</b>
10～14才の平均睡眠時間（週平均）	→ <b>8時間35分</b>
福島県の平均睡眠時間（平日）	→ <b>7時間48分（全国5位）</b>

このクラスの平均睡眠時間は全国5位の福島県と比べてやや下回っているということでしょうか。ちなみに総務省のこの調査での全国1位は毎年行われる「全国学力学習状況調査」で学力全国1位常連の秋田県で**7時間56分**でした。学力の向上と睡眠時間の相関関係がどの程度あるのか分かりませんが、少なくとも基本的な生活習慣の確立は生活力の向上につながるものと思われま

## ☆おとなの時間☆



今も昔も大人のライフスタイル自体は、それほど変わらないと思うのですが、子どもの生活時間はかなりの変化があるようです。わたしが子どもの時分は11時、12時など、子どもが起きていられる時間ではなかった気がします。わたしが子供の時分には「こどもの時間」と「おとなの時間」とが明確に区別されていました。ですから、子どもは遅くとも9時には寝かしつけられる、家庭のなかにそういう暗黙のルールというものがあ

り、夜更かしなど許されない環境だったような気がします。それはテレビもそうで、今のように11時過ぎまで子どもが視聴できる番組構成にはなっていませんでした。

つまり、社会全体で「おとな」と「こども」の生活時間上の棲み分けができていたというひとつの証左であると思います。昔のテレビ番組構成、時間では、今など放送できないものもありました。それだけ今の世の中は「おとなの時間」と「こどもの時間」の境界がなくなったとも言えます。笑えない話ではありますが、親よりも寝るのが遅い子どもは、「**親の寝顔を見て**」床につくのでしょうか。

生活の改善は「おとなの時間」に子どもを入れない、家庭ごとに生活のルールづくりをすることが大切だと思います。土曜日に「**8時だよ! 全員集合!**」が見られた、あのわくわく感がせいぜい「こどもの時間」と「おとなの時間」のぎりぎりだったのではないのでしょうか。